

## 2021年度の年間の活動

### 1. 全世帯参加の環境整備、景観形成活動

コロナ禍の中、「過密」を避ける意味から会合が制限される中、私たちのような農村部はいつも「低密」状態。メインの環境整備と景観形成活動は、例年通りの活動をおこなっています。2021年度は延べ500人の参加がありました。

- 花巻八景の「立岩」草刈り（2回）
- 公民館周辺の草刈り（2回）
- 花巻市文化財「桜」の管理（2回）
- 共同墓地周辺整備（1回）
- 遊休農地の管理（1回）
- 林地管理（1回）
- 農業用水路の管理（2回）
- 道路管理（5回）
- 花壇の手入れ（2回）
- 小グループによる特定地区の整備（随時）



## 受賞を契機に新たに取り組んでいること

### 1. ドローンによる四季の映像撮影

- まだ知られていない、地区内の見どころ撮影
- 地区の長年の懸案だった農地整備事業の撮影
- 撮影した映像を編集し、地元出身者を中心とした「ふるさとネットワーク」会員への提供し、関係人口の増加につなげる。



### 2. 関係人口の創出、外部人材を活かす社会実験

高齢化が進む中で、地区内農地や周辺の草刈り作業は地区住民だけでは限界に近づいてきており、今年度も連携団体のひとつである岩手県立大学の学生による水田畦畔の草刈り作業をおこなった。生徒から「作業はきつかったけれど貴重な経験をすることができた、ぜひ後輩に引き継いでいきたい」との感想が寄せられ、次年度へ弾みがつきました。



## 維持管理活動支援費の使途

- 花木苗木購入
- 四季の映像撮影・編集
- まちなみマップ製作

※年度当初に予定していた「住まいのまちなみ講演会」は、コロナウィルス感染拡大により中止せざるを得なかった。その予算を冬季の映像撮影に活用した。



## 近い将来取り組まなければならない課題

これからも人口減少や高齢化によって要生活支援者が増えることから「住民主体、連携団体との協働」により、2019年9月に策定した『福祉農園から始まる農村版地域包括ケアシステム構築ビジョン』に示された「住みなれた高松で安心して暮らしていきたい」との目標に向かって、ひとつひとつ課題を解決していきたい。

### 《ビジョンに示されている主な内容》

- ① 高齢者の知恵と技を活かす生涯現役の場創設
- ② 農福連携による関係人口の創出
- ③ 生活支援（病院への通院、買い物、配食サービス、除雪・・・）
- ④ 地元出身者を中心とした新たなネットワークづくり
- ⑤ 人と人との関係をつなぐ「近所の近助」運動

### 《連携団体》

- ① 花巻市（農政課、農村林務課、長寿福祉課、障がい福祉課）
- ② 花巻中央地域包括支援センター
- ③ 花巻市社会福祉協議会
- ④ 岩手県立大学社会福祉学部
- ⑤ 東北福祉大学総合マネジメント学部
- ⑥ 岩手県社会福祉事業団やさわの園
- ⑦ やさわこども園
- ⑧ JAいわて花巻
- ⑨ 障害福祉サービス事業所こぶし苑



（2021年度から、新たな農福連携事業（サツマイモの栽培、加工、販売）をおこなっている）